



インみたか通信

はっこう えぬびーおーほうじんしょうがいしゃせいかつしえん

発行：NPO法人障害者生活支援センター インみたか

ねんあきごう ごう
2019年秋号 (48号)

はっこうび ねん がつ にち
発行日：2019年10月25日

“ヘルパー証を首から下げるか否か”問題について考える

みやぎ とわこ
宮城 永久子

インみたかでは、利用者の介助中、原則としてヘルパーはヘルパー証を首から下げるなどして提示しないこととしている。もちろん、利用者から提示することを求められたり、学校などのような制限された場所に入ったりする際には、常時提示することもある。

ヘルパー証を首から下げない理由は、障害者とかかわる人の身分や立場をあえて証明してしまうことにより、それ以外の社会の人たちが障害者に関わりづらくなるのではという懸念があるからである。

インみたかでは、この理由のもと、ヘルパー証を常時提示しないのだが、時代は変わり、古い慣習から新しい発想に転換していかなければならないという思いもある。

ここで今一度、“ヘルパー証を首から下げるか否か”問題について、職員で考えてみることにした。

ヘルパーとひとえに言っても、街を見回してみると、様々な格好、いろんなタイプのヘルパーが障害者と一緒に歩いている。今風のファッションを着こなす人、利用者とあたかも友達同士のように楽しそうに過ごしている人。などなど。

うら つづ
裏に続く…。





インミタカは今、慢性的なヘルパー不足に悩まされている。これまで通りの人材募集ではこの先もずっとヘルパーは集まらないかもしれない、何か新しいことを始めなければと考えた。ヘルパーの仕事は今や社会の中でごく身近に存在するはずなのに、インミタカではあえて、ヘルパーであることを表明していないために、ヘルパーの存在、ヘルパーという仕事を見過ごされているとしたら、それはもったいないことではないだろうか。

先日、杏林大学から看護学部の学生たちが実習に来ていた。彼らに、なぜ看護師を目指しているか尋ねてみた。「幼いころ、入院し関わってくれた看護師さんがカッコよかったから」とか「身内の人が入院し、お見舞いに行ったとき、とても親切に対応してくれて、憧れを持った」などといった答えが返ってきた。なるほど一般の人にとっても、看護師という職業はどんなことをするのか、目に見



えてわかりやすいのではないかと感じた。だとしたら、ヘルパーがヘルパー証を下げることで、この仕事を広くアピールし、興味を引くきっかけにもなりうるかもしれない。一方で、ヘルパーが立場を明らかにすることにより、ヘルパーと障害者との関係が分断されてしまうのではないかとという危惧、ヘルパーに常に保護されなければならない(他者が手出しすることのできない)特殊な人として、同じ社会にいながらそこだけ隔離されているような感覚を持ってしまう不安など、障害者職員側の懸念もある。



そう思っているのは古い障害者の固定観念であり、時代は新しく移り変わり、今はもう“障害者は保護されなければならない存在”と思っている人は少ないとの健常者職員の見方もある。

現在までにこれに対する明確な結論は出ておらず、職員間でもいまだに悶々と考えている。

さて、この“ヘルパー証を首から下げるか否か”問題について、皆さんはどう考えますか？皆さんのご意見を是非お聞かせください。



「丁寧な暮らし」

株式会社ONE'S LIFE LIBERTY 代表取締役 新井寛

はじめまして。大学の同窓生の宮城さんからの招集を受けて今年度からインミタカの理事になりました。

*自己紹介

長野県須坂市出身で東京都国立市在住。「ラーセン症候群」という先天性の重度肢体不自由。社会福祉士。好きなことは電動車いすサッカーやスキューバダイビング、ジョイスティックカーの愛車を運転すること。電動車椅子ユーザー。



私が「障がいがある立場での地域で生きる」を考えると、大切にしたいことは、「丁寧な暮らし」をできるだけ心掛けることです。私の「暮らし」にも様々な場面があり、外との関わり場面では「仕事・活動・父親の看取り」があります。かわって自宅での関わり場面では、衣・食・住・介助者の場面があります。

特に「丁寧な暮らし」を心掛けたのは、後者の自宅での関わり場面。なぜなら、私という障害者を目にする機会が地域に住む人たちの日常生活上で多くなるからです。料理や掃除をするために買い物に行きます。そのとき出会うのは地域に住んでいる人々。道すがら、道をゆずり合いお互いに会釈する。狭い店舗で「またか！（じゃまだな）」と3歳児に言われる。教育現場等で障害者が良くも悪くも分断されている現状だからこそ、私という障害者を日常生活上で目にするだけでも、「見慣れて」「近くにいる違和感がなくなって」「地域に障害者が居ないのが不自然になっていく」のだと。行政府との折衝も重要。同じくらい「障害がある立場での地域で生きる」をし易くするための重要な一歩だと考えています。



今年4月に株式会社ONE'S LIFE LIBERTY を創業しました。ヨチヨチ歩きの1人会社です。ONE'S は「その人の」、LIFEは「人生」、LIBERTYは「自由」で、「あなたの人生をそのままに」という意味合いがあります。「あなた」とは、障害者、その障害者の親やきょうだい、その障害者を日々支える人、その障害者と日常生活上で関わりがまったく無い人、でもあります。研修・講演事業として「障害の社会モデル」を伝えるための研修活動をしています。「障害の社会モデル」とは、機能障害によって社会活動（教育を受けることや働くことなど）に参加できないのは、その人の機能障害を考慮しない「社会のしくみ」に原因があり、そうした社会との間で生じる様々な障壁によって「障害」が重くもなれば軽くもなるという考え方をいいます。その社会の側にある「障害」をそれぞれが改善していくことで、それぞれの「あなたの人生をそのままに」歩める人たちが増えていけばと思っています。

インミタカの一員としても、この考えのもとに、利用されているみなさま、ご家族ごきょうだい、関係団体のみなさま、インミタカのスタッフのみなさまのお役に立てることがありましたら、お気軽にお声がけください。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

*文中、「障がい」ではなく「障害」と私は記しましたが、「障害」は個々人にあるのではなく、社会の側にあるとの考えのもとに「障害」の害をひらがなにせず使っています。ご了承ください。

杏林大学保健学部看護学科実習生受け入れについて

ぼっぷ職員：障がい者職員 南雲 潤（脳性まひ・車椅子利用）

9月5日（木）～7日（土）にぼっぷの隣にある「就労支援センターかけはし」と内容を分担して、杏林大学から男性1名、女性2名の実習生を受け入れました。ぼっぷが担当したプログラムは以下の通りです。

- ①ピアカウンセリング（仲間同士の話の聞き合い）
- ②障がい者の日常生活と介助場面の見学（お宅訪問）
- ③利用者の生活状況の聞き取り
- ④高次脳機能障がい当事者・家族会（ぼっぷサロン）



特に印象に残ったのは、②お宅訪問と、④ぼっぷサロンです。

お宅訪問の際、男性は私の家を見学に来ます。部屋に段差が多く、バリアフリーとは程遠い部屋を見て、自分の想像と違っていたのか学生の様子が変わります。私が「室内では車椅子を使わない」と伝えると納得していました。

ぼっぷサロンでは高次脳機能障がいの方や家族と直接、話をする事が出来ます。事故にあった時の話や、障がい者になった理由など、メモを取りながら真剣に聞いていました。



学生の皆さんには、この実習を通して「病気」や「怪我」だけではなく「障がい」について知ってもらう機会になればと思っています。

『聞いて、私の障がいのこと！』

「障がい」とひとえに言っても、種類は多種多様。同じ障がいであっても、症状や特性は人それぞれに異なっています。知らないことで誤解や偏見を生んでしまうことも、自分の障がいを自ら発信していくことで、社会への理解につながれば良いと考えています。

第二回目の発信者は、発達障がいの息子さんがいるご家族の方です。

『私の子どもの障がいは、自閉症です。』

得意なことは、誕生日などの日にちを覚えること、映像としてものごとを記憶することです。

苦手なことは、感覚の過敏さがあり、特に大きな声や、人にさわられることです。

自閉症には発語がほとんどない人もいますが、私の子どもは、ある程度しゃべることはできます。

しかし、このことが、様々な誤解をうみます。しゃべれるのは、かんたんな会話のみです。

自分の思っていることを、相手にわかるようにしゃべったり、質問にはこたえられないことが、

わかってもらえず、本人が心ないことばで傷つくことがよくあります。

どうか、接するときは、本人のことばや親の代弁に耳をかたむけて、あたたかい気持ちで

接してもらえると、本人はずっと生きやすくなると思います。』

我こそは、「自分の障がいのことを伝えたい、聞いてもらいたい」と思う障がい当事者・ご家族を募集します。ぜひ、ぼっぷにご連絡ください。



がつついたち ちい じぎょうしょ しゃかいこうけんかつどう
8月1日 小さな事業所でもできる社会貢献活動

はけんぶしよちょう こばやし のぶよし
ヘルパー派遣部所長：小林 延芳

ある重度の身体障害者が一人暮らしを始めました。長年親元で暮らしていましたが、高齢の両親による介助が難しくなり、悩んだ結果、ヘルパーと共に地域で暮らし続けることを本人が選びました。

「家探し」、「24時間介助体制を確保するためのヘルパー派遣事業所探し」、「24時間介助を実現させるための支給決定」、どれも大変難航しましたが、ヘルパー派遣事業所(7社)、相談支援センター(2社)、通所施設(2社)、計画相談事業所、三鷹市役所、両親、きょうだい、家族など、多くの人たちが一丸となり、時にそれぞれの役割を飛び越えた動き(★)をしながら、なんとか一人暮らしのスタートを切れました。

「役割は飛び越えてはいけない」という意見もあるかもしれませんが、各事業者が「本来の役割(業務)以外やらない」となってしまうことで、本人や家族が足りない役割を補わなければならない状況に陥ります。それは時に「責任」という言葉で押し付けられてしまうこともあります。またその責任は、障害者本人ではなく家族に向けられてしまうことが往々にしてあります。

障害者が地域で暮らし続けることの責任は、その家族が担い続けていくものではなく、障害者本人と社会が担い続けていくことが健全なあり方だと考えます。

障害者本人と共に、社会の一員である事業者が柔軟に多様な役割を担っていくことは、NPO法人や社会福祉法人の重要な使命の一つである「社会貢献」。また企業においてはCSR活動(☆)の「社会貢献」として、小さな事業所でも業務の延長で取り組める活動ではないか？と個人的に思いました。

- ★『役割を担うべき事業者が体制的に間に合わず、役割を果たせない』、
- 『制度や社会の仕組みの中で、役割を担うものがないこと』など。
- ☆企業の社会的責任を意識した活動のこと。

いつかかん だいだげき
5日間の大打撃！

はけんぶしよくいん たき みお
ヘルパー派遣部職員：滝 美央

1日目 朝、事務所(アパート)に来たら固定電話と、パソコンのメールが使用できなくなっていた。昨日の落雷の影響だろう。隣人に落雷の被害を受けていないか尋ねると、「うちの問題ないぞ。」アパート全体が影響しているなら、「仕方がない」と納得できたかもしれないのに、うちだけ。システム関連を一任している担当業者に見てもらっても、今日中に復旧できない。復旧の見通しがつかないとの診断。通信システムが機能しない = 他者との連絡手段が途絶える。このことはヘルパー派遣部にとって致命的である。電気ガス水道などのライフラインが遮断されていないことに感謝を思いつつも、復旧の目途が立たないことに苛立ちが募る。

3日目 未だ復旧せず。止む無くインターネットを無線(新たに契約し購入した)に切り替え、パソコンのメールは復旧した。固定電話は、専門業者からの連絡を待つしかない状態が続く。

5日目 週が明けた。固定電話も、パソコンのメールも以前のように使用できる状態になっている。よかった。専門業者からの連絡はこなかったけど・・・。

自然災害の脅威を実感した5日間でした。

インみたかヘルパー派遣に関わる多くの皆さま、一定期間ご迷惑をおかけしました。





2019年8月31日(土) 午後5:00~午後7:00

のう りょう さい 納 涼 祭



を開催しました!



まだ厳しい残暑の残る中、お天気にも恵まれ、今年も
ぽっぷやインみたかヘルパー派遣部の利用者やヘルパー、
法人に関わるさまざまな方にご参加 頂きました。場所が
ぽっぷ前の駐車場で、若干の狭さを感じましたが、そ
れが幸いして親近感を得られることができました。



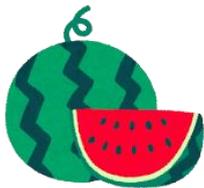
流しそうめんを口いっぱい頬張る人、スイカ(ボール)たたきで目隠ししてその場
で回転してクラクラしている人、金魚すくいに奮闘する人、お酒も入り頬をほんのり
赤らめている人、皆さん思い思いにその時間を楽しんでいるようでした。



最後に行った花火は、夏の夜をパッと明るく、華やかに彩って来ていました。

毎年恒例となった夏の一大イベントということ、多くの方がこの納涼祭
を心待ちにして下さっています。また、地域の方も遊びに来てくれました。

地域の方の協力あつての納涼祭です。今後も引き続きご理解のほどよろしくお願い
します。



ぽっぷ施設長：金子 洋祐



三鷹市障がい者相談支援センター ぽっぷ

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-18-2階 電話 0422-71-0901 ファックス 0422-26-5141
メール poppu@dream.ocn.ne.jp ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/>

障がい者計画相談センター くも

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102 電話 0422-26-7229 ファックス 0422-26-7229

障害者生活支援センター インみたか 派遣部

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102 電話 0422-71-0902 ファックス 0422-24-6266
メール in-mitaka@iaa.itkeeper.ne.jp ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/inmitaka/index.html>

みなさま
皆様からの
ご意見・ご感想が
私たちの励みに
なります。
ぜひきかせて下さい。
お待ちしております。